

JCS2023 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは。華岡青洲記念病院の山口です。今年は雪解けが早く、昨年の豪雪は何だったのか？あの2月に起きた車のバンパー破損は何だったのか？と、嫌な事を思い出してしまいました。

さて、今回は、福岡で開催されました日本循環器学会（JCS）の参加報告です。今年のJCSは現地開催が基本で、後日のアーカイブ配信という形式でしたが、現地参加者が非常に多く、人気の会場はどこも満員状態で、通常のJCSが戻ってきたという印象でした。初日の朝一から聴講したいセッションがありましたので、前日に移動しました。そこで、JCSの前夜祭的な会として開催されておりますBeyond Angiographyという研究会がありましたので、まず、そちらの会場に出向きました。

後半からの参加にはなりませんが、今話題のINOCAに関して、そしてvulnerable plaqueの診断に関するセッションを聴講出来ました。この2つの話題はJCSでも取り上げられており、改めて注目されている領域です。INOCAとは非閉塞性冠動脈疾患（Ischemia with No Obstructive Coronary Artery disease）の事で、冠動脈造影や冠動脈CT検査では同定できない心筋虚血を評価する事の重要性や、その様々な評価方法に関して聴講しました。また、冠動脈CTや血管内イメージング同定されるvulnerable plaqueに関しては、そこからのACS発症の割合は少ないという事実を踏まえて、さらなる予測因子の検討が必要であるという方向性が示されておりました。

さて、JCSの初日には、「SHD治療に必要な最新の画像診断」を聴講しまして、個人的にはHOCMの最新の外科手術においてCT画像がとても重要であるという事を知り、大変興味を持ちました。その後の、「より良いACS診療体制の構築」では、予後に大きく影響する緊急血行再建までの時間を短くするには、病院内だけではなく

地域全体での取り組みが重要である事を理解しました。

2日目には「冠動脈造影を超える！慢性冠動脈疾患における心臓CTの現状と可能性」を聴講しました。CTから得られる情報のさらなる可能性について様々な角度からのお話を聞くことが出来ました。これらを実現するには、我々が撮影し画像再構成する元画像の高いクオリティがあったこそであり、改めて検査技術の向上が急務である事を実感しました。この日の午後には、私が座長を務めた一般演題のポスターセッションがありました。多岐に渡る内容でしたが、参考になる演題が多く、ディスカッションも活発に行われました。

最終日には、各モダリティにおける心筋ストレイン評価に関するセッションを聴講し、ランチンセミナーでは、改めてINOCAの1要因であるCMD (Coronary Microvascular Dysfunction) に関する講演を聴講しました。そして、最後にはチーム医療セッション「循環器診療における放射線被ばくに関するガイドラインを理解する」に参加しました。これは日本循環器学会と日本放射線技術学会とのコラボレーション企画です。帰りの飛行機の関係上、途中までしか参加出来ませんでした。参加者が少なかったのが残念でした。しかしながら、カテーテル検査室での術者やスタッフの被ばく管理は重要になっておりますので、もっと多くの皆様に関心を持って頂きたいと思っています。

福岡といえば、博多ラーメン、水炊き、もつ鍋、ふぐ、うどん、屋台など、たくさんのグルメスポットがあります。今回の学会では、おでん（久留米のおでん）の美味しい素敵なお店に出会う事が出来ました。今年の8月にはCVITがまた福岡で開催されます。是非、このおでんやさんを再訪したいと考えています。もしCVITに参加される方がいらっしゃいましたらお声がけ下さいね。



The 27th ANNUAL SCIENTIFIC MEETING OF
THE JAPANESE CIRCULATION SOCIETY

JCS2023 FUKUOKA

NEW CHALLENGE
WITH NEXT GENERATION

MARCH 10-12
2023

Fukuoka International Congress Center
Fukuoka Sunpalace
Marine Messe Fukuoka

一般財団法人 福岡コンベンションセンター
福岡国際会議場 マリメッセ福岡A館・B館 福岡国際センター